

シンガポールに
学べ!

モータージャーナリスト、レーシングドライバー、そしてチューナーと多方面で活躍する太田哲也が、世の中に自らのオピニオンを直球で発信し世相を斬る「オレの話」を聞け。

15回目に取り上げるのは、旅行で立ち寄ったシンガポールで感じたこと。日本以上に資源のないシンガポールが発展しているのはなぜか? そこに未来へのヒントを見いだす。

TEXT●太田哲也(Tetsuya Ota)

PHOTO●株式会社スポーツドライビングジャパン

太田哲也の

オレの話

ジム・ロジャースに惹かれて

「車高をトラックのように高くして妙なカタチに仕上げた黄色いメルセデスSLSで、3年間に渡って116カ国25万kmを旅したジム・ロジャースという冒険投資家がいる。著書を読んで、氏の現状把握と未来展望力は本物だと思ひ、以来彼の言動を気にしていた。そうしたら最近、彼がシンガポールに移住したことを知った。そうか、時代はシンガポールなのか! となれば様子を見に行ってみようか。治安もいし街もきれいらしい。老後を送るのに良いのかも。そんな気持ちで出かけてみた。

取得コストがめちゃ高い高級車

シンガポールに対する事前のオレの知識といえば、頭がライオン下半身が魚のマーライオン。美人揃いのCAとフルフラットのビジネスシートのシンガポール航空。あるいはF1ナイトレース。ビルの上に船を載せた形状のマリーナベイ・サンズホテルは、ソフトバンクのCMでスマップが屋上のプールサイドを歩いた。そんな程度の知識だった。我ながらミーハーだ。

その他、タバコのポイ捨て禁止、麻薬は死刑、街がきれいで治安が良い。そしてアジアの中でも発展著しい国といったところか。

といっても所詮新興国、高が知れているだろうと思っていた。ところが、日本よりもすこかったのだ。

まずは走っているクルマだ。メルセデス・ベンツ、BMW、アウディ、アルファロメオはさら。ジャガー、アストンマーティン、ランボルギーニ等、GENROQ的なスーパースポーツやプレステージカーが普通に

走っている。東京の港区や世田谷区あたりよりもすこしいのだ。日本車だとランエボとかインプレッサとかRX7などのカスタムカーが目についた。

さらに街を走るすべてのクルマが、タクシーも含めて新しくきれいなクルマは10年を経たクルマは廃棄しなければならぬらしい。

シンガポールの面積は国全体で東京23区とほぼ一緒くらいしかなく、とても狭いが、公共交通機関が発達し、地下鉄とバス路線が網の目状に巡っている。利用した郊外の駅には構内にバスターミナルがあり、親切な案内係もいて、すぐに乗り替えてきた。バスも頻りに来た。タクシー

もすぐにつかまる。つまり自家用車を移動の道具として乗る必要性が少くない。にもかかわらず高級車や新型車が街にあふれている。クルマが「道具」としてではなく「ステータス」の一部として存在しているのだ。オレはそこに共感した。

しかもクルマの値段は尋常じゃない。税金など諸経費を含めて約200%増し。つまり500万円のクルマを買うには1500万円が必要だ。計算だ。それでも売れるのだから、よほど経済が順調で雇用が安定しているのだろう。

小さな面積しかなく、資源もなかった国が、近年は右肩上がりだ。経済成長を続けている。どうやってそ

んな発展を遂げたのだろうか? 現地に着いたらそんなことに興味を持った。

普通のOLがBMWを所有

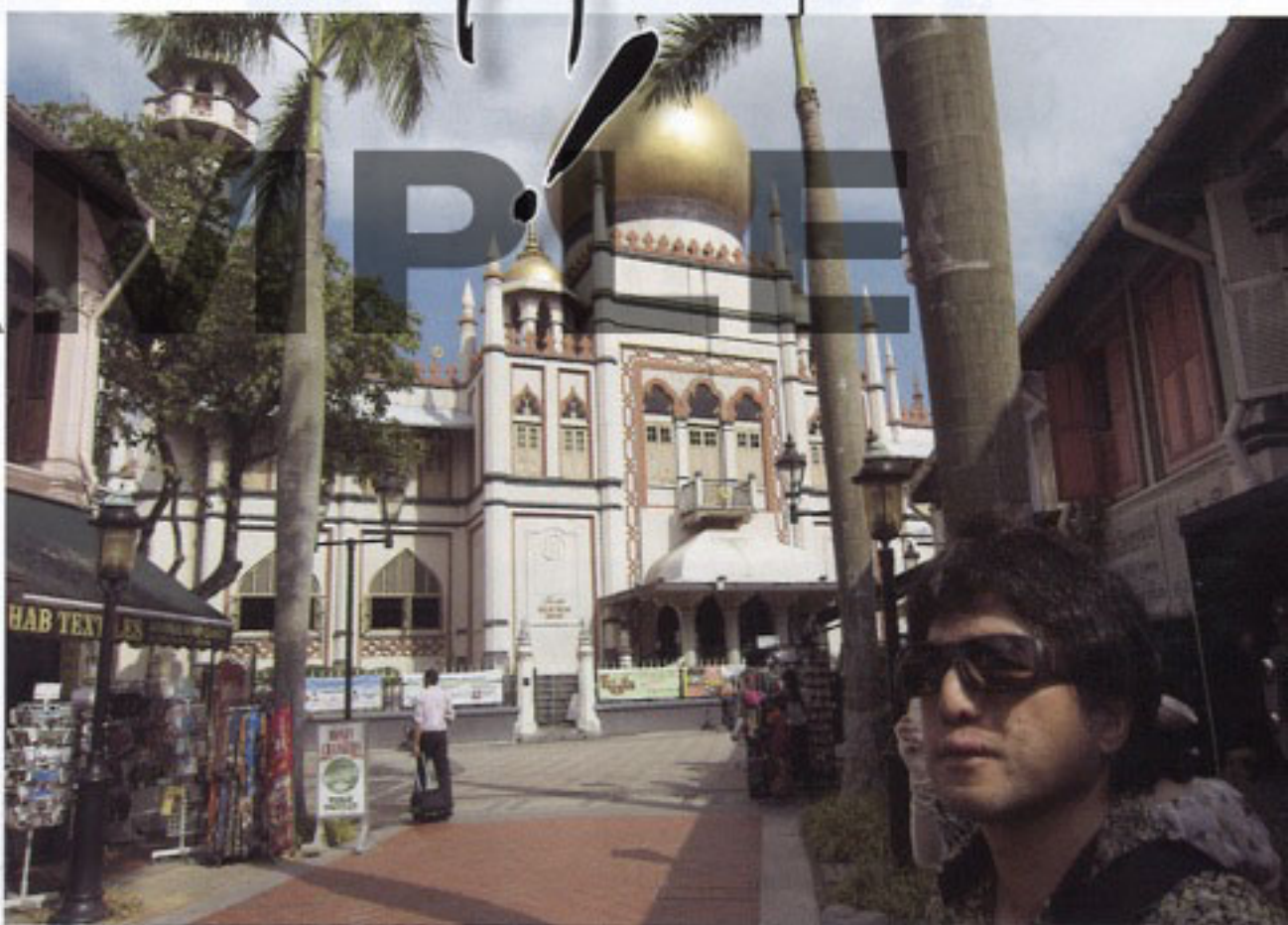
答えに行き着く前に、もう少し街の様子を見てみよう。驚いたのは駅のエスカレーターのスピードがとても速いことだ。老人だと危険じゃないかなと思ひ見渡してみたが、乗客のほとんどが若い人だった。どこかかしこも人が多い。現地の人による仕事はたくさんあり、給料も高いという。ちなみに地下鉄の広告には電話受付及び事務職の女性で月給が邦貨にして35万円以上と出ている。日本よりかなりよい。ビジネス主体で街が動いている印象だ。

夕方、オフィス街で、仕事を終えたちょっとイイ格好をしたOL風の女性が、パーキングに停めていた自分のBMWに乗り込んでいた。似た光景を幾度か見た。車両代は高いが雇用が安定しているため、ローンで購入する人が多いらしい。

街全体が浮かれていて、成長し続ける明るい未来を感じる。所詮新興国と思っていたが、実際は高層ビルが立ち並び、しかも日本のような雑居ビルがなく、東京港区青山辺りにあるような、デザイン



シンガポールはどここの駅も人にあふれている。地下鉄の構内はとてきれいでシスデマチック。公共交通機関が発達しているため、クルマは移動の道具としては必需品ではない。



世界三大がっかりとも言われるマーライオンは、大小が背中合わせで行んでいた。大したものではないが、それを観光資源にするまでプランディングしたことには注目したい。観光収入は日本を上回る。対岸には船の形をしているマリーナサンズホテル(スマップが屋上のプールサイドを歩いた)が見える。





旧きイギリスの様式を色濃く残したラッフルズホテルは雲霧気が良かった。アジアには行きたがらない妻もラッフルズには泊まってみたく。日本の「オモテナシ」以上にサービスが行き届き、心からサービスしようという気持ちが伝わってきた。廊下には宿泊した皇室や女優の写真が並ぶ。昨年は元F1ドライバーのジョニー・ハーバーとデimon・ヒルも来たようだ。庭園には様々なプレスステージカーが停車していた。

他力本願政策が成功

ン性の高いお洒落な建物が多い。さらにどこに行っても建設ラッシュだ。日本のバブル期よりもっとすごい感じなのだ。

もともとは150年の間イギリスの植民地で、1963年にマレーシアに統合された。しかしその2年後、マレーシアから突然追放されてしまった。

資源はない。水も人材も乏しい。土地も狭く、技術も何もない国だった。だから独立時に自力で経済成長できる目はまったくなかった。そこで日本とは全く別の成長戦略を立てた。

キーワードは他力本願だ。日本のやり方が、モノ作りを自前

で進めてノウハウを蓄積する方式だとしたら、シンガポールは他国からモノや人を呼び寄せる環境をつくる政策を進めたのだ。

シンガポールの成功の象徴ともいえるのが、美しいマリナベイ・サンズホテルなどの建造物だろう。しかしここは昔は汚泥の溜まり場だった。政府がバラックや作業場などに立ち退きを命じて徹底的に整備した。

今では対岸に金融街、世界中の銀行や保険会社、ファンド会社が入り込め合っている。膨大な金の流れのハブとしての地位を手に入れた。

また多くの多国籍企業がアジア進出の作戦本部として転入、ここを拠点に周辺諸国にビジネス展開していく考え方だ。

こうした成功を実現できたのは、法人税と所得税を下げ、企業と優秀な人材を呼び込む施策を徹底的に行なったことだ。さらに汚い町を改善して、きれいで安全な街を作って、働き手や投資家、富裕層が集まって来てくれる環境を整えたからだ。

地下鉄の発券もエレベーターのスピードも何から何まで効率的で、頭のよい人が考えた感じがする。この背景にあるのは教育で、公用語は英語に統一されている。そうやって世界の頭脳を呼び集めた。冒頭のジム・ロジャースが移住を決めた理由のひとつは、自分の娘に高度な教育を与える環境があるからだだった。世界中の頭脳を呼び寄せる仕組みを作ったのだ。

日本との違い

こうしたシンガポールの手法は、現在、不景気で様々な問題を抱える日本にとってヒントになるのではないか。

本来、国家にとって最も大切な

は経済と雇用だろう。それを改善するには海外から投資を呼び込むべきなのに、日本政府は企業からも人からも税金を取ることはかりを考えている。人々は生活防衛のため欲望を抑え、安いもの、安いものと求めていく。経済意欲が低下して企業の業績が下がり、優良企業は海外に転出、赤字企業だけが日本に残る。ますます雇用が悪くなる。

いいクルマに乗りたくなる

実際にシンガポールに来てみて、今の日本やヨーロッパでは感じない「興奮」を覚えた。ヨーロッパはその文化や歴史に触れるのは楽しいが、日本人の自分にとって現地でビジネスの展開はあまり思いつかない。しかしシンガポールでは、もし自分がその気になるなら、新たなビッグビジネスがスタートできそうな予感がする。バブル期のようなわくわく感が街全体にあふれている。成長を続ける明るい未来に自分も乗っかれそうな気がした。

偉大なる マーライオン

実際に見てみてマーライオンそのものはたいしたモノではなかった。頭がライオンで下が魚、そこにたいした根拠はない。観光協会がでっちあげたと言えなくもない。しかしシンガポールに来てマーライオンの見方が変わったのも事実である。



街中にはプレスステージカーがあふれていて、BMWやアウディ、メルセデスの姿はまるで珍しくない。ベントレーやレクサスも見かけた。さらにはランボルギーニ・アヴェンタドールも普通に見られるのだから恐れ入る。経済状況の良さがこんな所でも見て取れる。



800兆円を超えた。国全体の雲田気として、過去の「遺産」で食いつなぎ、借金しながら何とか生き延びようとする後ろ向き姿勢に見える。一方でシンガポールは、自らの将来像をデザインし、成功した。マーライオンこそがブランドビジネスの偉大なる象徴だろう。そしてシンガポールという国自体がブランド戦略の理想像であろう。

老後にどうかと思っただけで訪れたのだが、老後に住む国ではなく、むしろ働く場だ。たとえクルマの価格が高くとも、イイクルマに乗ろう、その分稼げばいいんだから。そんな気持ちになれそう。活気ある人たちが過かっていると、自分のモチベーションも上がるものだ。

子どもたち世代も、プレスステージカーを見て育てば、自分も手に入れたい、成功したいと思うだろうし、そのためには努力しようと思うことだろう。

シンガポールで「元氣」を注入され、老後のことより今の今、新しいクルマが欲しいなと思った。



こんなおばちゃんでもカスタムカーに乗っていたのには驚く(右側の青いスバルから降りてきた)。カスタムカーや高級車の整備をするショップが集まった工業団地にも足を向けてみた。ここではアルファGTが人気で、スポーツマフラーへの交換は定番のようだ。しかし日本ほどクリティは高くないからビジネスチャンスがあるかも?



5月18日(日)ツインリンクもてぎ開催! Tetsuya OTA ENJOY & SAFETY DRIVING LESSON with FORD!!

「安全運転を、楽しく学ぶ!」をテーマに掲げ、太田哲也氏が校長を務めるドライビングスクール2014年の初回は5月18日に開催。広大な広場で安全に走りこめる南コースと、国際レーシングコースである東コースを体験走行できる。クラス別に分かれており、1周毎のタイムアタックができるスパイGPも同時開催。最新フォード車(フォーカス、フィエスタ、未発売モデルのエコススポーツ)の体験試乗や同乗走行も実施。http://www.sportsdriving.jp

